

連続コラム

— 光秀の源流を探る —

第7回 光秀の出自を探る

明智光秀の出自は謎に包まれています。確定的な答えは出せませんが、今回はその謎の出自に迫ってみたいと思います。

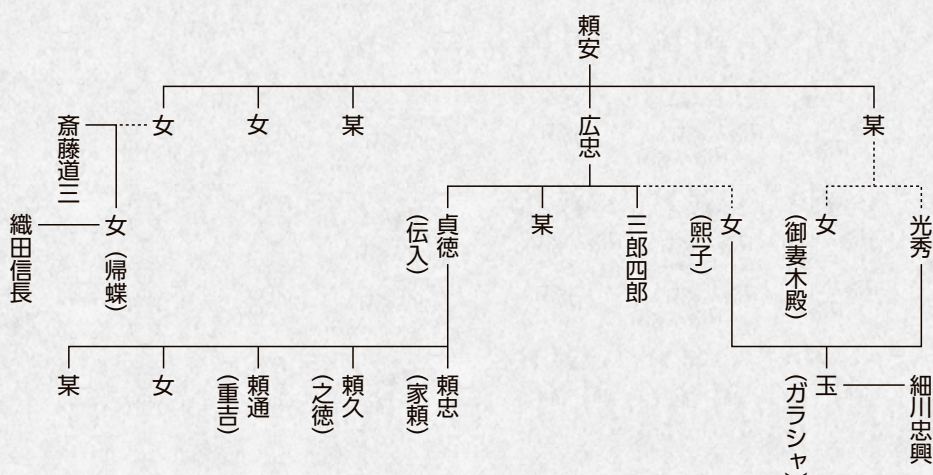
大河ドラマでは、明智城主として可児郡明智庄を代々治めてきた土岐明智氏当主の子として光秀を描いています。しかし、これは良質な史料では確認できず、軍記物が創作した設定と考えられています。光秀は土岐明智氏の一族だとしても、嫡流の当主などではなく、庶流のごく低い身分の生まれだったとする見解が現在の通説です。生誕地についても諸説ありますが、竹中重門がその著作『豊鑑』に書き記した「美濃国土岐郡明智という里」が最も信ぴょう性の高い生誕地と考えられます。この「土岐郡の明智」は、コラム第2回で述べた通り、現在の土岐市妻木町・下石町域にあたります。妻木町を中心とする妻木郷は、土岐明智氏初代の頼重以降、庶流の妻木氏に至るまで明智一族が守り通した本拠地でした。

光秀の家族についても見てみましょう。大河ドラマにも登場した父光綱や叔父光安、祖父光継らもやはり良質な史料では確認できず、物語の中の人物といえます。実在の人物としては、伯父妻木広忠、妹妻木が知られています。通説では妻（通称熙子）の伯父と妹とされますが、光秀の妻には不明瞭な点が多く、近年の研究では光秀自身の伯父と妹とする見解も増えてきました。

このように、光秀の出自を探っていくと、必ず「妻木」の存在に突き当たります。光秀の娘玉（ガラシャ）が嫁いだ細川家と妻木家は江戸時代になってからも非常に親しい親戚付き合いを続けており、両家の血縁の近さは明らかです。妻ではなく光秀自身が、あるいは両人が妻木氏の出だった可能性も考えるべきでしょう。詳細は不明瞭ですが、伯父広忠には少なくとも兄弟二人、姉妹二人がいました。これらの人物が、光秀の出自のカギを握っているものと思われる。

【仮説 妻木一族と光秀の関係】

光秀の出自には諸説ありますが、妻木氏の史料を元に検討すると、この系図のような関係性も考えられます。（※この系図は一仮説のため、特に破線部は史実と異なる可能性があります。）



企画展開催中

期間：9月18日(金)～11月29日(日)

土岐市美濃陶磁歴史館

『二宮コレクション 初代土岐市長二宮安徳が描いた夢』
『美濃桃山陶と元屋敷窯 — 領主妻木氏の産業振興 —』